

|              |                          |             |                       |
|--------------|--------------------------|-------------|-----------------------|
| <b>3類型</b>   | 観光資源、農林水産物、<br>鉱工業品      | <b>通巻番号</b> | 10-26-006             |
| <b>地域資源名</b> | 闘牛、島とうがらし、沖縄島野菜、<br>沖縄の塩 | <b>認定日</b>  | 平成27年2月2日             |
| <b>地域</b>    | 沖縄県国頭郡今帰仁村               | <b>所管省庁</b> | 農林水産省、経済産業省、<br>国土交通省 |

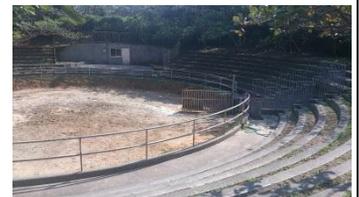
## 事業名：5感で楽しむ沖縄の闘牛ブランド化発信事業 from 今帰仁

会社名：上間商店株式会社  
連絡先：TEL0980-56-1948

所在地：沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊3570番地  
HP：http://www.haibisu.com

### 事業概要(新たな活用の視点)

・沖縄県では戦前から伝統的な娯楽として闘牛が親しまれてきた。近年、増加する観光客へ新たな沖縄の魅力としての闘牛を地域の飲食メニューとして開発するカレー等で食してもらおう。また、民泊向け修学旅行生等へ闘牛に触れてもらう機会を設けながら観光商品化を進め、5感を通じて楽しんでもらえる県外への情報発信及び県内での伝統文化の活性化を推進する。



【今帰仁村闘牛場】

### 売れる商品づくり(競争力、市場性、販路)

#### ◆競争力

・闘牛は、今まで本格的に活用されていなかった地域資源であり、観光資源としての見るだけに留まらない食やグッズ類の開発、触れ合い体験といった本事業計画での多面的な商品化政策には幅広反響が期待できる。

#### ◆市場性

・ご当地カレー等地域色豊かな商品が増えつつある中、本計画内ではお土産品だけではなく地域の飲食店と連携し食してもらえる体制を整備する。食してもらうことでお土産品の購入効果や情報発信強化へつなげていく。

#### ◆販路

・年間25回程度開催される闘牛大会の会場にて県内消費者へは飲食や商品購入の場を設けていく。  
・沖縄県本部半島には年間400万人程度が訪れる「沖縄美ら海水族館」があり、周辺地域への波及効果も大きい。今帰仁村への周遊観光客も増加しており、観光客向けの販路展開も目指す。



【飼育される闘牛】



【闘牛大会の様子】

### 地域資源における関係事業者との連携

・今帰仁村商工会とは地域の飲食店や小売店との連携強化を、観光協会は観光商品としてのPR拡大を推進、併せて教育委員会とも食育の一環となるような連携を深める。